

動物用医薬品

生菌製剤

動物用ビオスリー[®] BIO-THREE[®] for ANIMAL

●成分及び分量

本剤は1g中に下記成分を含有する。

有効成分	含 量
ラクトミン（乳酸菌）	20mg (7×10 ⁶ 個以上)
酪酸菌（ <i>Clostridium butyricum</i> TO-A）	20mg (2×10 ⁵ 個以上)
糖化菌	20mg (3×10 ⁵ 個以上)

●効能又は効果

単純性下痢の予防、治療

●用法及び用量

成牛・成馬 : 1回 50～200g
子牛・子馬・成中豚 : 1回 20～50g
子豚・犬・猫・鶏 : 1回 1～3g
上記量を1日3～4回投与する。

●使用上の注意（基本的事項）

1. 守らなければならないこと

（一般的注意）

- ・本剤は定められた用法・用量を厳守すること。
- ・本剤は効能・効果において定められた目的にのみ使用すること。

（取扱い及び廃棄のための注意）

- ・変色が認められた場合には使用しないこと。
- ・小児の手の届かないところに保管すること。
- ・本剤の保管は直射日光、高温及び多湿を避けること。
- ・誤用を避け、品質を保持するため、他の容器に入れかえないこと。
- ・使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。

2. 使用に際して気を付けること

（使用者に対する注意）

- ・本剤の調製又は使用に際しては、粉塵を吸い込まないように、保護マスク、保護手袋及び保護メガネを着用すること。
- ・取扱い場所には、必要に応じて局所排気装置を設置すること。
- ・取扱い後は、手、顔等を石けんでよく洗い、うがいをする。

（対象動物等に関する注意）

- ・抗菌性物質との併用は避けること。
- ・副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。

●包 装

1kg(100g×10包)、
20kg(1kg×20包)、20kg

●共済薬価収載

製造販売元

 **東亜薬品工業株式会社**
TOA BIOPHARMA CO., LTD.

〒151-0073 東京都渋谷区笹塚 2-1-11

東亜アニマルヘルス
Webサイト

<https://animal.toabio.co.jp/>



販売店

動物用医薬品

生菌製剤

動物用ビオスリー[®]

BIO-THREE[®] for ANIMAL

単純性下痢の予防、治療

bi:

BIO-THREE[®]

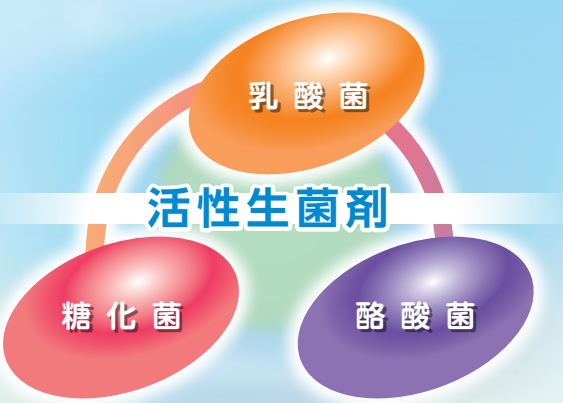
腸ではたらく3つの力。

3種生菌配合

TOA BIOPHARMA CO., LTD.

動物用ビオスリー®

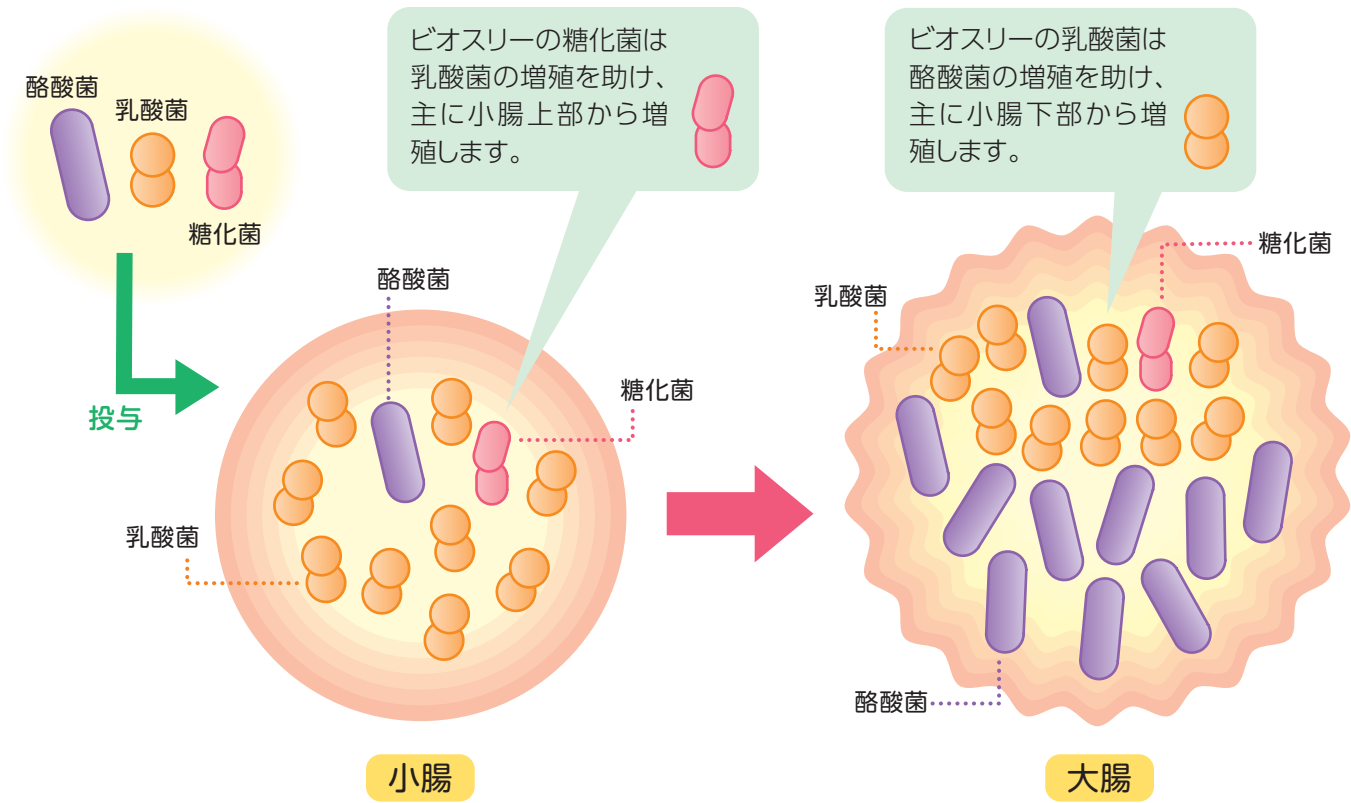
動物用ビオスリーは3種の活性菌により、過食や腸疾患及び腸内有効菌の消失などにより起こる様々な腸疾患に対し、速やかにしかも副作用なく効果を示す整腸・消化剤です。



特長

- 1 本剤は3種類の有効な活性生菌の協力作用により、乳酸、酪酸及び各種酵素を旺盛に産出します。
- 2 乳酸及び酪酸は腸内の酸度を高め、有害細菌の発育を阻止します。
- 3 各種酵素は飼料の消化吸収を助け、飼料の有効利用を促します。
- 4 動物の健康に大きな影響を及ぼす腸内菌叢が各種ストレス、動物の生理、薬物などの要因によって変動した場合、速やかな正常細菌叢への回復を促進します。
- 5 本剤に含まれる3種類の活性生菌は動物体への安全性が高く、消化管から吸収されず血液中に移行することはありません。

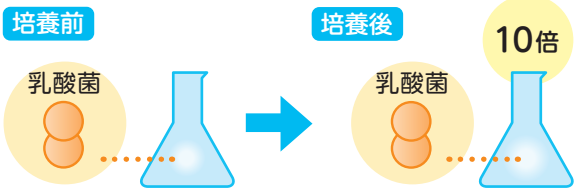
●ビオスリー3菌配合について



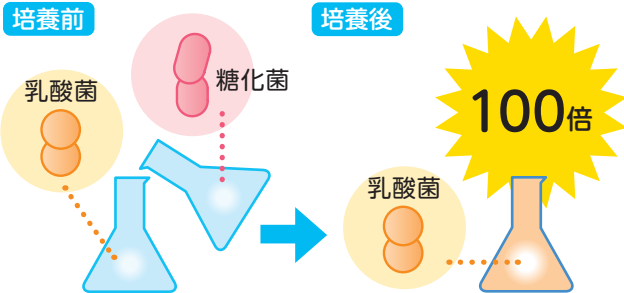
●乳酸菌と糖化菌の共生

乳酸菌と糖化菌を混合培養することで乳酸菌は培養後約**100倍**に増殖し、両菌の間に共生関係が成立していることが証明されました。

●単独で培養した時



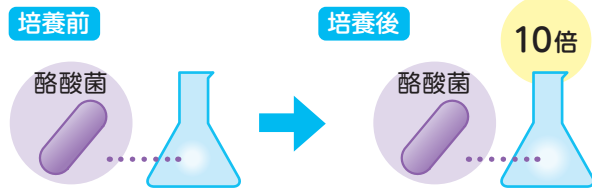
●糖化菌と混合培養した時



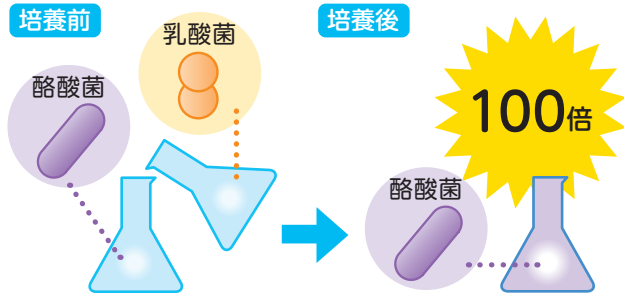
●酪酸菌と乳酸菌の共生

酪酸菌と乳酸菌を混合培養することで酪酸菌は培養後約**100倍**に増殖し、両菌の間に共生関係が成立していることが証明されました。

●単独で培養した時

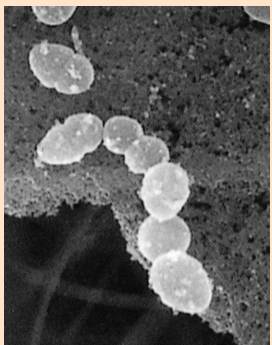


●乳酸菌と混合培養した時



乳酸菌 *Enterococcus faecium* T-110 株

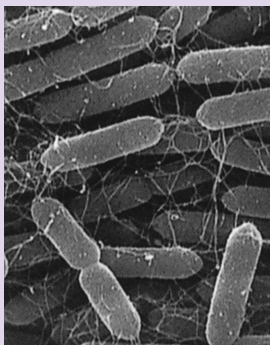
形態は双球菌または単球菌でグラム染色性は陽性です。腸内では小腸下部あたりから増殖をはじめ、通性嫌気性菌(酸素の有無に関わらず増殖できる)です。L-乳酸を産生し腸内pHを下げ、有害菌の発育を抑制する役割を担っています。乳糖分解酵素(β galactosidase)を産生することから、乳糖不耐症にも効果があります。ビオスリー中の酪酸菌と共生して、各種の腸管病原菌の増殖を相乗的に抑制します。胃酸・胆汁酸の影響を受けにくいことから生きたまま腸に達することが、臨床試験でも認められています。



Enterococcus faecium T-110 株の走査電子顕微鏡像

酪酸菌 *Clostridium butyricum* TO-A 株

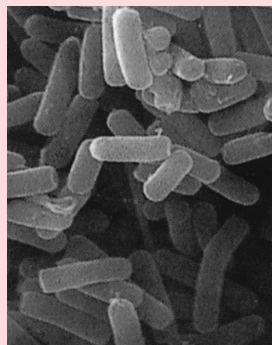
形態は芽胞を形成するグラム陽性の桿菌です。偏性嫌気性菌であることから酸化還元電位の低い(嫌気度の高い)結腸あたりから増殖を始めます。酪酸・酢酸の産生能力が他の *Clostridium butyricum* に比較し高いのが特長で、ビオスリー中の乳酸菌と共生して、各種の腸管病原菌の増殖を相乗的に抑制することが確認されています。胃酸・胆汁酸の影響はまったく受けずに腸まで到達し増殖します。



Clostridium butyricum TO-A 株の走査電子顕微鏡像

糖化菌 *Bacillus subtilis* TO-A 株

形態はグラム陽性桿菌で芽胞を形成します。糖化菌は好気性菌であることから腸内では腸管上部から増殖を始めます。デンプンを糖に変える力、すなわち糖化能力が高い(アミラーゼ産生能)ことからこのような命名がされました。糖化菌は、各種増殖因子を産生し、ビフィズス菌や乳酸菌などの増殖を促進させます。胃酸・胆汁酸の影響を受けずに腸まで到達し、発芽して増殖を開始します。



Bacillus subtilis TO-A 株の走査電子顕微鏡像